

学校法人阿弥陀寺教育学園 国際医療福祉専門学校七尾校  
平成 28 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日 時：平成 28 年 8 月 7 日（日）14:00～15:30

場 所：国際医療福祉専門学校七尾校 2 階会議室

出席者：中川忠司（七尾市役所 健康福祉部福祉課 次長）  
奥井敦士（社会福祉法人七尾市社会福祉協議会・会長）  
伊藤邦夫（理学保護者、後援会会長）  
法乘未来（公立つるぎ病院、介護卒業生）  
三和勘太（国際医療福祉専門学校七尾校・副校長）  
由久保弘明（国際医療福祉専門学校七尾校・理学療法学科学科長）  
嶋崎貴士（国際医療福祉専門学校七尾校・作業療法学科学科長）  
泉和志（国際医療福祉専門学校七尾校・救急救命学科副学科長）  
藤田賢二（国際医療福祉専門学校七尾校・介護福祉学科学科長）  
後藤純子（国際医療福祉専門学校七尾校・事務職員）

会議進行

1. 開会の挨拶
2. 平成 27 年度学生募集活動報告
  - 1) 過去の入学者数と現状

学科/年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
PT（理学）	38	27	30	32	30	29	37	27	32	14
OT（作業）	17	18	13	20	14	14	24	9	12	10
EMT（救命）	4	4	8	7	12	11	19	9	11	15
CW（介護）	-	-	-	-	-	14	14	10	5	9
合計	59	49	51	59	56	68	94	55	60	48

- ・人数に多少の波はあるものの、低水準で維持している状態。
- ・平成 28 年度（今年度）が最も入学生が少なく、早急な対応が必要。
- ・高校との信頼を築くためにも、入学者数の退学・休学を減らし、国家試験の合格率の向上と、その分野での就職率 100%を目指す。

< 質疑（委員） >

理学療法学科の入学生が極端に減少している原因をどう分析しているか。

< 返答（学校） >

子供の数自体が減っていることや学校数自体が増えてきているため、他校を落ちてから入学していた学生が減っている。

能登で一校しかない学校であることを、地域・学校と結びつきを持ちながらアピールしていく。

## 2) 年間スケジュール

平成 27 年度	平成 28 年度
4 月 高校訪問	4 月 高校訪問
5、6 月 高校ガイダンス	5、6 月 高校ガイダンス
8 月 学校説明会	8 月 学校説明会
9、10 月 高校訪問	9、10 月 高校訪問
11 月 職業体験講座	11 月 職業体験講座
12 月 学校説明会	12 月 学校説明会
1 月 高校訪問	1 月 高校訪問
2 月 学校説明会	2 月 学校説明会
※オープンキャンパスを年に 8 回開催	※オープンキャンパスを年に 7 回開催

- ・学校案内パンフレットや学校訪問時での資料で、オープンキャンパスの日程を通知しているため、今年度の回数の変更は難しい。来年度のオープンキャンパスの日程・回数は改めて検討していく。

## 3) 高校訪問・高校ガイダンス

	【高校訪問実績】		【高校ガイダンス実績】	
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
4 月	36	30	1	1
5 月	5	<u>45</u>	5	6
6 月	23	<u>27</u>	3	8
7 月	11	<u>37</u>	11	4
8 月	52	—	1	
9 月	39	—	1	
10 月	40	—	5	
11 月	27	—	3	
12 月	10	—	5	
1 月	12	—	3	
2 月	13	—	4	
3 月	0	—	4	

- ・本校へ資料請求があるとすぐに高校へ出向き、各学科の教員が説明を行っている。
- ・一月に一度程度近隣の高校を回り、学生の進路状況を確認している。
- ・今年度は、4 月から各学科の教員（主に理学教員）が高校訪問している成果がみられ、昨年と比較し資料請求者は 7/31 現在で 78 件あり、昨年の同時期と比較して 10 件多

くなっている。

#### 4) オープンキャンパス

平成 27 年度	PT (理学)	OT (作業)	EMT (救命)	CW (介護)	合計
1 回目 (6/28)	1 名	4 名	2 名	1 名	8 名
2 回目 (7/20)	8 名	7 名	1 名	2 名	18 名
平成 28 年度					
1 回目 (6/19)	2 名	3 名	4 名	0 名	9 名
2 回目 (7/23)	2 名	7 名	7 名	7 名	23 名

- ・オープンキャンパス参加者については、昨年の同時期と比較して全体で増えている。特に救急救命学科と介護福祉学科への参加が多い。

### 3. 平成 28 年度学生募集への新たな取り組み

#### 1) 長野方面への学生募集

- ・今年度から長野県の高校内ガイダンスを 4 校行い、高校訪問も、長野市、松本市を中心に、20 校ほど行っている。長野市周辺の学校は金沢市内の大学に進学する生徒もいるので、長野市での七尾校の周知を行って、オープンキャンパスにつなげていく。

#### 2) 氷見・高岡方面への学校送迎バス

- ・今年度より、氷見・高岡方面への無料送迎バスを毎日運行（土日・祝日以外）。
- ・高校訪問時など外部から「七尾校のバスを見た」との意見が多く寄せられ、広報の一環としても注目を集めている。そのため、スクールバスに広報も兼ねてマグネットシート（オープンキャンパス開催等）を近日中に貼り付け本校を広くアピールしていく。
- ・乗車人数 毎日 5～10 人程度乗車しており、週末は多い時で 16 人乗車している。

#### 3) 学校ガイダンスへの強化

- ・昨年は進路サポート会社 ライセンスアカデミーのガイダンスを中心に、40 回ほど開催しているが、今年度は後期からさんぽうとも契約し、ライセンス+さんぽう主催のガイダンスを取り入れ、高校生に対する直接アプローチの機会を増やし、募集につなげていく。

#### 4) 各学科の現状と取り組み

##### 【理学療法学科】

- ・例年 30 名程の入学対し、今年は 14 名と半数の学生となっている。
- ・県内に本校を含め 4 校（大学 2 校、3 年制専門学校 2 校）の養成校がある。

来年度、富山市内に4年制専門学校が開校される予定である。

- 本学科の在学生の大半は、能登地区と富山地区の学生で占めているが、他養成校を第1希望として受験し、その結果をみて第2希望、第3希望として本校へ入学する学生が多いのも現状としてある。
- 国家試験合格率は全国平均が74%のところ、本校は55%であった。
- 合格に至らなかった卒業生に対しては、科目等履修生（聴講生）として、受講もしくはティーチングアシスト（教務補助業務）を行ってもらっている。
- 募集の方針は以下の通り。
  - ①在学生の母校を中心に学生状況を伝えるなど高校との連携を密にする。
  - ②能登地区、富山地区の指定校推薦枠、学校長推薦枠の周知と強化
  - ③在学生および卒業生の紹介から入学へつなげる。
  - ④3年制と学生寮を中心にアピール

< 質疑（委員） >

国家試験の受験スケジュールと合格発表の日程を教えてください。

< 返答（学校） >

理学療法学科、作業療法学科、救急救命学科に関しては3月上旬に国家試験があり、3月末に結果発表となる。そのため、就職内定をもらっている学生に関しては、取り消し等の処置がなされる場合がある。

落ちた学生に関しては、ティーチングアシスト制度等にて、対応している。

< 質疑（委員） >

落ちた学生が再受験した場合、合格率はどうなっているか。

< 返答（学校） >

近くで十分な指導を受けた学生は合格している割合が多いが、なかなか学校に来ることができない学生の合格率は低い現状がある。

< 質疑（委員） >

入学者を増やすためには合格率を上げることが先決ではないか。

< 返答（学校） >

国家試験には大きく分けて基礎系と専門系に分けられ、いままでは基礎系を重点的に勉強していくことである程度合格圏に入っていたが、昨年度の国家試験は専門系が難しく、不合格となる学生が多かった。今年度からは専門系の学習を十分にできるように指導していく。

< 質疑（委員） >

少子化の中で行きたい学校になるには、他校にはないメリットを創設する必要

があるのではないか。

<返答（学校）>

七尾市には医療機関等が充実しているメリットをアピールしていきたい。

#### 【作業療法学科】

- ・5月15日付けで専任教員が1名退職。現在3名の教員がいるが、1名は育児休暇のため、1月までは実質2名で対応している。そのため、現時点で広報活動を積極的に行えていないが、まずは卒業生の国家試験100%、OT（作業療法士）としての就職率100%を目指す。
- ・平成29年度より、学校の一部を利用し、デイサービスの運営も検討。他学科と協力しながら、七尾にある学校として、地域を支えながら広報の一環としても務めていく計画。
- ・募集の方針は以下の通り。
  - ①身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、高齢期領域と幅広い分野での活躍をアピール。それに合わせ、就職率100%のアピール。
  - ②国家試験合格率3年平均で91%と全国平均並み。
  - ③他校より実習が多く、より実践に近い形で技術の習得が可能。

<質疑（委員）>

平成29年度からのデイサービスの運営を検討されているが、どの程度具体化されているのか。

<返答（学校）>

介護予防が市区町村に運営が移行され、柔軟な形でのデイサービスの形ができる。その中で、教員だけでなく学生が関わっていくことで学びになると考えている。

#### 【救急救命学科】

- ・救急救命学科は、北陸唯一の救急救命士養成校であり、例年10名程の入学者がいる。しかし、10名という数字は北陸唯一の専門学校としては低く、昨年からは北陸3県の高校訪問を実施。その中で、本校の知名度の低さを実感したため、今後も継続して県外への訪問や新たな広報も検討していく。
- ・入学生の大半は消防を希望しており、中には消防不合格で本校に入学している学生もいる。昨年は13名消防受験し9名消防に採用。近隣の公務員対策を中心に行っている学校に負けないよう公務員対策の充実を図り、国家試験合格率100%はもちろんのこと、消防希望者も100%就職に向け取り組んでいく。
- ・募集の方針は以下の通り。
  - ①全国の救命士養成学科校（専門学校、大学）からの消防就職率は平均で47%と

なっているのに対し、本校の昨年の消防就職率は 83%。

- ②公務員試験対策の充実を図るため、1 年次から対策し公務員試験（一次試験）の合格率を 100%にできるように教育を行っていく。

< 質疑（委員） >

救急救命士の資格だけ持っていても、目標が消防に就職であるため、しっかりとした教育・合格率が必要。

< 返答（学校） >

消防に合格しても救急救命士が不合格になった場合には、信頼が失われるために、そうならないように指導していく。

### 【介護福祉学科】

- ・全国的に介護福祉士養成校への入学者が減少しており、平成 18 年度は定員数 26,855 人のうち入学者数 19,289 人で定員充足率は 71.8%だったのに対し、平成 27 年度では定員数 17,796 人のうち入学者数 7,258 人で定員充足率は 40.8%となっている。
- ・能登地域の少子化の現状、介護ビザ制度の創設予定を踏まえ、来年度から日本語学校を卒業した留学生を受け入れる方針。
- ・平成 27 年度生より、国家試験が義務付けられたため、国家試験合格率 100%が前提となるように教育を行っていく。
- ・募集の方針は以下の通り。
  - ①全国トップクラスの成績（390 校中 39 位）のアピール
  - ②施設と連携した給付型奨学金の充実のアピール
  - ③平成 29 年度より留学生を受け入れる

< 質疑（委員） >

給付型奨学金はどのようなものがあるのか。

< 返答（学校） >

法人によって給付額や条件はさまざまであるが、能登地域に人材の確保するために施設と連携して行っている。

### 【その他】

< 質疑（委員） >

（PT/OT の）国家試験に合格した学生、不合格になった学生の就職率はどうなっているのか。

< 返答（学校） >

国家試験に合格した学生の就職率は 100%、不合格になった学生に関しては、内定取り消しになる学生もいるが、介護関係の仕事をしながら勉強をしているの

が状況である。

< 質疑（委員） >

卒業生との結びつきが弱いのではないか。結びつきを強くしていくことで、卒業生からの紹介も期待できると考えられるのではないか。

< 返答（学校） >

同窓会はあるが、年に1度卒業生数名が来る程度であるため、縦のつながりを強めていく取り組みを検討していく。

4. 平成30年度日本語学科（仮名）開校について

現時点では構想段階であるため、後期の学校関係者評価委員会にて進行状況の報告を行う。

5. 閉会の挨拶

以上